

質量報告書

品名 ○○○○○○○○

型式 ○○○○○○○○

器物番号 ○○○

重錘の質量値

重錘番号	表示 圧力 (kPa)	質量値 (kg)
○○○ - 1	○○	○○○○○○
2	○○	○○○○○○
3	○○	○○○○○○
4	○○	○○○○○○
5	○○	○○○○○○
6	○○	○○○○○○
7	○○	○○○○○○
8	○○	○○○○○○
9	○○	○○○○○○
10	○○	○○○○○○

質量値の拡張不確かさは、± 0.0015 %である。

備考

- 測定は標準分銅を使用し、分銅及び重錘の密度は8000 kg/m³と見なした。
- 拡張不確かさは信頼の水準約 95 %に相当し、包含係数 k は 2 である。
- 依頼者からの要望により測定したデータであり、証明書の一部ではない。

使用した標準器等

(品名)

標準分銅

(器物番号)

○○○○○○

(証明書番号)

○○○○

発行日 ○○○○年○○月○○日

株式会社双葉測器製作所校正室
東京都荒川区東尾久8-21-14

有効断面積報告書

品名 ○○○○○○○○

型式 ○○○○○○○○

器物番号 ○○○

算出結果

校正結果より算出した上記依頼品のピストン・シリンダの有効断面積およびピストン・シリンダの温度係数/圧力係数は以下の通りである。

有効断面積 A_0 = ○○○○○○ (cm^2)
温度係数 α = ○○ $\times 10^{-6}$ (/ $^{\circ}\text{C}$)
圧力係数 λ = ○○ $\times 10^{-11}$ (/Pa)

備考

1. 各校正圧力値における有効断面積Aは次式により算出した。

$$A = M \cdot \{ 1 - (\rho_1 / \rho_2) \} \cdot g / |P|$$

ここで、
A : ピストン・シリンダの有効断面積 (m^2)
M : 校正圧力値に対応する重錘の質量 (kg)
 ρ_1 : 空気密度 (1.2 kg/m^3)
 ρ_2 : 重錘密度 (8000 kg/m^3)
g : 重力加速度 (9.80665 m/s^2)
P : 校正圧力値 (Pa)

2. 圧力依存性を考慮せず、各校正圧力値における有効断面積の平均値をピストン・シリンダの有効断面積 A_0 とした。

$$A_0 = \Sigma A / n$$

ここで、
 A_0 : 温度 20 [$^{\circ}\text{C}$]、大気圧におけるピストン・シリンダの有効断面積 (m^2)
n : 校正点数 (—)

3. 依頼者からの要望により算出したデータであり、証明書の一部ではない。

発行日 ○○○○年○○月○○日

株式会社双葉測器製作所校正室
東京都荒川区東尾久8-21-14